

第28回市民スポーツフェスティバル ソフトボール大会でアベック優勝の快挙

11月3日、西京極総合運動公園で第28回市民スポーツフェスティバルが開催され、山科区からは各種大会に32チーム、約300名が出場しました。ソフトボールの聖地「わかさスタジアム」で行われたソフトボール大会において、一般の部で百々チームが、壮年の部で山階南チームが優勝するなど、各種目で山科区のチームは大いに健闘し、総合第4位に輝きました。



▲百々体振チーム



▲山階南体振チーム

- 種目別成績(入賞以上)
- ◆ソフトボール
 - 「一般の部」優勝：百々
 - (決勝：百々6対2桃山東)
 - 「壮年の部」優勝：山階南
 - (決勝：山階南5対3桂川)
- ◆ソフトバレーボール
 - 優秀チーム：山階 鏡山B
 - 陵ヶ岡A 大宅B 百々A 小野A
 - ペタンク
 - 優秀チーム：山階 鏡山A

市チャンピオン大会(女子バレーボール)

11月20日、ハンナリースアリーナで開催された同大会に、山科区からは「山科区民チャンピオン大会」で優勝した山階南チームが2年連続で出場しました。同チームは、昨年度王者の貴塚を見せ、1・2回戦を勝ち進みましたが、準決勝で昨年度の決勝戦の相手である本能チム(中志)に惜しくも敗れ、3位となりました。



11月13日開催の第26回山科区民ニュースポーツ祭の結果は、1月15日号でお知らせします。

フグによる食中毒に注意しましょう!!

毎年この時期、釣ったフグを素人が調理することによる食中毒事件が、全国的に発生しています。フグは種類により、卵巣や肝臓以外にも、猛毒のテトロドトキシンが含まれているため、最悪の場合、死に至ることがあります。

フグ毒は熱や酸に強く、通常の調理方法では無毒化しません。食用できるフグの種類や食用部位の判断は、フグ処理師等の専門家に任せ、釣ったフグを素人判断で絶対に食べないようにしましょう。

- 問い合わせ先／区保健センター 衛生課(☎592-3489)

ひとり親のご家庭へ、大切なお知らせ 「児童扶養手当」の加算額が変わります

平成28年12月支給分から

加算額が、増額されます
【第2子】最大月額10,000円に
【第3子以降】最大月額6,000円に



平成29年4月から

加算額に、物価の上下に合わせて支給額が変わる「物価スライド制」を導入します

- 問い合わせ先／区支援課支援第一担当(☎592-3247)

生活安全 スポットニュース その「電話」待って詐欺かもしれません!!

～オレオレ詐欺にご用心～

オレオレ詐欺は、特殊詐欺の一種であり、山科区内でも被害が多発しています。

「俺だよ、オレオレ」、「わたし、わたし」と名前を名乗らず、「借金をしてしまいました。お金を振り込んで欲しい」という電話が掛かってきたことはありませんか？

このような不審な電話が掛かってきた場合は、絶対に焦ってお金を振り込まず、迷わず警察に相談しましょう。



- 問い合わせ先／山科警察署(☎575-0110)

「お口の健康」忘れないでね! ワンコインでうけられる 歯周疾患予防健診

- 対象／市内在住の満40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の方(年一回)
- 実施場所／指定医療機関(京都市ホームページを参照。対象の歯科医院にはステッカーが掲示してあります)
- 受診方法／指定医療機関に事前にご予約をください。
- 健診費用／500円(免除制度あり。お問い合わせください)
- 持ち物／年齢が確認できるもの(健康保険証、免許証など)
- 問い合わせ先／区保健センター 成人保健・医療担当(☎592-3477)

「山科」きずな支援事業 第2次交付事業を決定!

採択事業	採択団体
子育て支援コンサート「みんなでくつろぐコンサート～“ほんもの”の音楽を楽しもう～」	シアターアカンパニ運営委員会
坂上田村麻呂を活用した地域活性化	坂ノ上田村麻呂公園愛護会
高齢者認知症予備軍のスマホ学習会と研修会	特定非営利活動法人山科未来地図 E-wa(い～わ)!!山科
AWR 介護生活安定・介護離職防止事業	AWR「もうひとつの働き方・もうひとつの生き方」協議会
山科区内の小学生による1,000人の提灯行列	山科おやじの会連絡会
山科検定	一般社団法人山科経済同友会
笑人カフェどんげね? ～子ども食堂～	笑人 Wa-Road

※それぞれの取組は、下記の「きずなリレー」などで随時紹介します!

主体的なまちづくり事業に補助金を交付する「山科」きずな支援事業の平成28年度第2次交付事業担当(☎592-3066)



第45回 区民活動きずなリレー パパとママのつながる育て広場

京都橋大学心理臨床センターでは、月に1回、乳幼児の親子を対象に、親子で楽しく交流しながら相談もできる子育て支援プログラム「パパとママのつながる育て広場」を実施しています。担当の濱田先生(同大学健康科学部助教)にお話を伺いました。

「このプログラムは子育てについて気軽に相談できる場を作ることを目指し、平成23年の当センター開設の年から続けています。特徴は、最大10組という少人数の参加者に対して、臨床心理士でもある教員と保育士に加え、心理学の学生が子どもにマンツーマンで対応する手厚い体制。プログラムでは、まず参加者みんなで一緒に絵本やパネルシアターなどを楽しんだ後、親子別々になります。子どもはプレイルームで保育士や学生のサポートで自由に遊び、その間、親は子育てで困っていることや心配なことなどをグループワークでお互いにしゃべり合い、必要に応じて私や他のスタッフが助言を行います。その後、希望者は個別にスタッフへ相談をすることもできます。」

スタッフからは、子どもの様子を観察したことをもとにお話をします。それぞれの子どもと個性を踏まえた上で、子どもとどう関わればいいのかということなどを臨床心理や保育の専門性を生かしてアドバイスするそうです。

今年度は8回開催する予定ですが、子どもが「また行きたい」と希望し、継続して参加する方が多いそう。継続して関わる中で、それまでおとなしかった子どもが、自分の気持ちを表現できるようになったり友達と遊べるようになったり。



- 問い合わせ先／区総務・防災担当(☎592-3066)
- 問い合わせ先／京都橋大学心理臨床センター(☎574-4367)